



# 週報 所沢西ロータリークラブ (RI第 2570 地区第 3 グループ)

会長 室伏秀樹 ・ 副会長 原 正興  
会長エレクト 栗原和明 ・ 幹事 大館信夫  
クラブ管理運営委員長 山崎武邦

例会場 〒359-1127 所沢市星の宮1-3-5 セレス所沢 TEL.04-2923-4122  
事務局 〒359-1143 所沢市宮本町2-22-25 角田ビル3F TEL.  
例会日 毎週火曜日(12:30~13:30) <http://www.tokorozawa-nishirc.net/> FAX.2926-5151  
E-mail nishirc@dream.ocn.ne.jp

近辺 RC の開催日一覧表 (メーキャップにご利用ください)

クラブ	所沢中央	所 沢	新 所 沢	所 沢 東
例会日	月曜夜間	火 曜 日	火曜夜間	木 曜 日
例会場	セレス所沢	野村證券	セレス所沢	セレス所沢

## 四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

1. 点鐘…会長 2. 斉唱…ロータリーソング 3. 来賓紹介 4. 会長、幹事報告 5. 委員会報告

## 第 1279 回例会 2012・11・6

卓 話	例会当番	記念祝福
11/6 米山奨学生ベトナム国 グエンホ・アカン様 地区役員 忽滑谷 明様 11/13「酒の製造及び酒の話の あれこれ」五十嵐智勇様	石井 實様  上野 孝二	11月会員誕生 小暮 博文 豊田吉三郎 平方 真一

■出席報告	
月 日	10/30
会員数	38
出席者	30
出席率	78.9%
前回修正	84.2%

### 会長の時間 室伏 秀樹

先週は、ガバナー訪問ご苦労様でした。

おかげさまで高い評価を受け、終了することができました。

ご協力感谢您いたします

本日で1年と三分の一が経過しました。

ガバナーから御礼の手紙が来ていますので、朗読します。

あと主要な行事は、増強とIMとクラブ行事です。これからもご協力をお願いいたします。

増強は3名を計画していますが、まだ未達成です。

IMは3月9日に、入間市の産文センターで開催されます。

姉妹クラブの吉安ロータリーとの今年1月に終了した、マッチンググラントを発表します。

花蓮県老人思いやり計画ということで、当クラブから各5,000円計20万円と吉安クラブ、RIの補助金合わ

せて240万円で、日産セレナの車椅子仕様を老人施設に寄付しました。

このことを発表します。

後はクラブ内行事ですが、本日バスト会長会を6時から堤新亭で開催します。

次々年度人事が主な案件です。

本日の卓話は、農業について西村様です。よろしくお願いたします。

### 幹事報告 大館 信夫

♥ロータリー財団「未来の夢」 ニュースレター  
2012年10月

♥ロータリー文庫より 文庫通信 302号

♥第3グループ 2,012~13年度 第5回会長幹事会  
のご案内 11月7日(水) 18:00~

西武百貨店 所沢店 8F パンケットルーム

♥所沢市交通安全推進協議会より「冬の交通事故防止運動について」

- ♥平成 24 年度所沢市防犯のまちづくり市民大会・所沢市暴力排除推進大会について
- ♥例会変更・・・所沢 RC
- ♥週報・・・吉安扶輪社
- ♥欠席会員の状況報告

11月25日(木)上野 孝二さん、松本 勇さんを訪問して来ました。

上野さんは10月3日に腸より出血して、防衛医大に入院しましたが、現在会社に出社できるようになりましたので11月よりロータリーに出席出来る様に頑張りますとの事です。

松本さんは、夏の暑さで熱中症になり、寝ている時間が長かったので歩行が大変になりました。今、リハビリ中ですので、もう少しで出席出来るようになります。皆様に宜しくとの事でした。

### ニコニコボックス

宮岡 實

室伏 秀樹 先週はガバナー公式訪問、皆様の御協力ありがとうございました。

本日の卓話、西村様よろしくお願ひ致します。

大館 信夫 先日のガバナー訪問、会員皆様にお世話になりました。

新井 正義 ガバナー訪問の時に休んですみません。小暮さんには社会奉仕代読有難うございました。

須澤 一男 前回休みました。

鈴木 真澄 前回欠席致しました。カナダに行っていました。

本橋 正夫 すみません。前回欠席でした。選挙の関係で急に用事が出来ました。



### 卓話 <日本の農業の現況と

農業の役割>

アグロ・カネショウ (株) 西村 輝夫様



故人曰く、と申しますか、昔からその時代、時代で活躍された有名な方々が、異口同音に指摘したことは「農業は国の発展と安定の基である」、とゆう言葉でした。今日は、その考えを基にして、現在の日本の農業はどんな状況にあるのか、私見を交えて話を進めて参りたいと存じます。



### 「日本の農業を生産高から見た状況」

日本の年間の食糧用農産物生産高は 8・5兆円です。これを諸外国と比べてみると、どのような位地関係にあるか、と申しますと、世界で 5 番目です。日本の国民総生産・GDP は 520 兆円余りですので、約 1・5%に相当します。その他の国の状況はどんな具合かと申しますと、

- 1位・中国「28兆円」
- 2位・アメリカ「18兆円」
- 3位・インド「15兆円」
- 4位・ブラジル「10兆円」
- 6位・フランス「5.5兆円」
- 7位・ドイツ「3.8兆円」

## 15位・オーストラリア「2・6兆円」

一方、日本の農産物の輸入高は約5兆円です。内約2兆円は飼料と、コーヒー、タバコ等の加工用のものです。純粋な食糧用の輸入額は3兆円です。これを国産の8・5兆円に加算すると、日本の食糧用の農産物需要は、合計11・5兆円になります。すると、生産高から見た自給率は74%になります。

農業は国の基本とゆう観点からすれば、改善すべき課題は山積してありますが、生産高から見た日本の農業の現状は諸外国に比べてそんなに悲観すべき状況ではない。むしろ、この狭い国土でよくぞ食を支えてくれている、といえます。この状況を支えているのが、野菜、果樹、畜産の農家です。ここに携っておられる農家は、ほとんどが専業農家です。専業農家とは年間の所得が農業によって賄われているとゆうことです。また輸入関税も0%から20%程度で、制度上の恩恵は差ほど受けていません。自主独立、自助努力、自己負担、自己責任を旨として頑張っている方々の賜物です。省みて20数年前、大変な反対を押しつけて、この分野は輸入の自由化に踏み切りました。自由化した後の今日の状況はどうか、とゆうと、その例を僅かながら紹介しますと、

「牛肉は20万トンの増産、オレンジ・サクランボ・リンゴは輸入が大幅に減少」結果として、自由化を撥ね退けて、外国との競争に勝った訳です。勝因は品質と安全性に厳しい日本の消費者のニーズに見事に応えた、とゆうことでしょうか。

## 「カロリーベースから見た状況」

日本の食糧の自給率については、いまや、それが一般的になったかに理解されている計算方法があります。それが、カロリーベースによる算出方法です。マスコミも一様に、しかも無批判に報道していますので、この計算式が固定化されつつあります。皆さんの認識も恐らくその一線上にあるものと存じます。

カロリーベースで算出すると、日本の食糧

自給率は40%を下回る、非常事態だと、農林水産省は指摘しています。従って、これ以上の輸入の自由化は、日本の農業を枯渇させる、と反対しています。当然、TPP等の参加は反対です。多国間の貿易の取り決めは、経済・社会・文化関係の安全保障的な要素を含んでいます。日本は1人でこの世界に生きていけるでしょうか？

しかも、このカロリーベースなるものは、算出の仕方に、実態にそぐわない、又理解出来ない不思議方法で算出されています。例えば、日本で飼育している牛・豚・鶏等の餌に外国産の資料を使用した場合、これを日本産と認めておりません。従って自給率に反映されません。日本の食生活は大きく変化しました。それは、洋風化です。米の消費量が減り、肉類の消費量が増えました。健康志向も強くなり、野菜の需要が増加しています。米・肉はカロリーが高いが、野菜や果物はカロリーが低い。従って、この方法で計算すると自給率は低くなります。しかも、この計算方法を基にする限り、いつまでもたっても自給率は上昇しません。

カロリーベースで自給率を算出している国は、世界で日本と韓国だけです。日本の農業の問題点は米作です。1・減反政策と補助金 2・耕作放棄地の拡大 3・担い手の高齢化 4・米の消費量の減少。数えれば、きりが無い程問題だらけです。今までの保護政策の結果、ともいえます。乱暴の様ですが、この際減反政策をやめて、米を作りたい人に、自由に作らせる政策に舵を切るべきだと思います。

世界の人口が増加の一途で、やがて100億人に達し、食料の増産はどの国でも最大の課題になっています。そうゆう世界の中で日本だけが減反をし、農地を遊ばせておくのは世界の常識から、随分はずれている、と思います。自由に米を作らせれば、いずれ一農家の栽培面積は意欲のある処へ集約され、50ha以上の大型米農家が新たに生まれ、諸外国との価格競争に必ず対抗できようになる。さら

に、より良い米作りが加速すると思います。自由化を怖がることはない。日本の農家には優れたものが多い。それは、他の分野の農業が既に証明済みです。

自由化から生じる新たな問題は米作農家を含めて専業農家が意欲をもって働ける手助けをする制度を制定すれば良い、と考えます。TPP・FTA・EPAの参加に反対する農家・団体を静めるために、年間3兆円の補助金を用意する案が囁かれています。これは正しくばら撒きでしかなく、農業の足腰を強くする助けに、ならないと思います。農業は自然との闘いの面がありますから、万が一の時にあたっては手厚い保護は必要でしょうが、農業外所得の割合が圧倒的に多い兼業農家に血税を注ぐのは如何なものかと思います。因みに3兆円は日本が諸外国から1年間に輸入する小麦の20年分です。兼業農家はむしろ、2次産業、3次産業の発展、繁栄によって自らの生活が豊かになる。諸産業の発展による恩恵に、より多く依存していると思います。

### 「農薬の割合」

日本の農薬事業は、メーカーの出資金額で3200億円です生産量は19万トンです。全世界での需要は約5兆円です。国内の売り上げは減少傾向にありまして、ここ数年はほぼ横ばいです。海外は年々歳々上昇傾向にあり、日本のメーカーは挙って海外の市場に打って出ています。昭和55年が国内の売り上げのピークでした。其の時の金額が約4000億円で、生産量は60万トンでした。今は、生産量は3分の一程度迄落ち込みました。その理由の一つは技術革新です。少ない投下量で病気や害虫を防げる新しい薬剤の開発が進んだためです。それは同時に自然への負荷が少なくなった事の証明です。もうひとつの理由は、使う側、つまり農家が規定の量と使う時期を守る様になったためです。医薬でも同じ傾向がありました。説明書に1錠を服する様に、としてあるにも係らず2錠飲んだ方が早く効くだろう、とゆう人が多く見られま

すが、同じ様な感覚で農家が農薬を利用して来た頃もありましたが、40年前に農薬取締法が改定され、すべての農薬は作物ごとに年間の使用量と使用時期が決められております。これを農家の人が厳格に守り、作業簿に記載しています。もし規定以上の物が検出されると、その産地全体が責任を負うことになっています。

現在流通している農薬は全て国家の承認を得たものです。国家の承認を得るには色々な角度から、薬剤の安全性を確認する義務がメーカーに課せられています。それに要する費用と時間は莫大なものです。一つの農薬を世に出すには、約20億の費用と5年から10年の歳月を要します。明日がどうなるかさえ解らないのに、10年先を予測して製品の開発に踏み出す訳ですので、相当勇気がいります。最終決定する立場の人は、後は天にまかすような心境になるようでございます。

詳しい事はお手元の資料をご参照頂ければ幸いです。

農薬は危険だ、危険だと主張して止まない人が、最近少なくなりました。農薬の社会的役割と安全性についての理解がすすんで来た証だと思えます。

カルホルニア大学の教授で、生化学の博士であり、ノーベル賞の候補になり、日本国際賞「日本のノーベル賞」を受賞したエイムスさんが指摘するところによれば、「虫に食われたり、病気になると植物そのものが、自ら健全に生きようとするため、毒素を作り出す。」この毒素こそ非常に危険であると、忠告しております。ある一定の範囲内での農薬の使用によって、綺麗で清潔な、そして安全、安心な食物を我々は手にする事ができる、と論破しております。

今日は、このエイムス博士の言葉をもって、私の話を締めくくりたいと存じます。